

第3の食品表示 「機能性表示食品」が始まる

コンドロイチン、スルフォラファン、セサミン・・・「目にやさしい」「肌が綺麗になる」といった通常では誇大広告とされてきた表現が、最近では今まで聞き慣れないこのような成分を全面的にPRする商品がテレビやラジオCMが目立つようになってきた。特定健康保健用食品（以下トクホ）、栄養機能食品に続く第3番目の新たな機能性表示食品制度が、4月1日より開始された効果によるものだ。

消費者庁が平成25年から8回にも渡って有識者による討議され実施に至っている。トクホや栄養機能食品とは異なり科学的根拠に基づく健康成果をもつ食品について、製品販売の60日前までに消費者庁に機能性関与成分の働きや安全性、有効量などについて提出すれば機能性表示食品と指定することが可能となった。また、提出した情報を企業はホームページ等で消費者にわかりやすく開示することも必要となっている。対象食品はアルコール類を除くサプリメントや加工食品のほか、生鮮食品など食品全般となっている。

では、今までのトクホや栄養機能食品とはどこが違うのかというと、国民に認知されつつあるトクホについては消費者庁に認定されることが必要となっている。「脂肪がつきにくくなる」「脂肪を燃焼しやすいのは〇〇」といった具体的な標記の許可とトクホマークを表示するためには、科学的データや根拠を示し審査に合格しなければならない。従って、時間と費用がかかるため資金力のある大手企業により活用されている現状が伺える。また、栄養機能食品については消費者庁が指定したビタミン12種と5つのミネラル成分について、一定の含有量を含んでいる商品に限り各企業の判断にて指定が出来る。栄養成分そのものの効能について記載できる。トクホも食品全般を対象としているが、今回の機能性表示食品は生鮮食品も対象となっている。野菜や魚、肉も対象だ。よって、機能性表示食品制度は資金力のない中小企業や生産者にも門戸が開かれた格好となっており実際に農業法人や中小企業でもうまく活用するところが見られてきた。機能性表示食品は科学的な根拠も示されており、食の安全など食品業界の健全化にもつながるとして期待されている。

あるカット野菜等の加工食品メーカーではこれを契機に今まで蓄積したデータを武器に機能性成分や抗酸化機能を全面的に打ち出して新たなブランド作り、マーケット拡大に活用しようとする動きが出てきている。消費者にとっても今までの健康食品は体に良さそうな「イ
 (次ページへ続く)

■機能性が表示されている食品



メージ」で売れるものが多かったが今後はこれが難しくなるため喜ばしいことだ。一方でこのような機能を持つ食品が「当たり前化」しこの分野での競争が激化し一般化することで、せっかく取り組んだにも関わらず付加価値化に繋がらないのではないかと懸念する生産者の声も聞かれ今後の動きに注目したい。

西部菱肥会理事・運営委員会開催

今年の西部菱肥会は、1月8日の賀詞交歓会から始まり、先週7月2～3日に理事会・運営委員会合同の役員会を徳島県徳島市にて開催した。

出席者は、小浦理事長(小浦産業㈱社長)・村澤専務(有丸喜商店)・竹原社長(両備産業㈱)・真野社長(㈱真野商店)・今井部長(四国物産㈱)以上理事(代理含む)5名、山本運営委員長(山本コーポレーション㈱社長)・立石専務(立石商事㈱)・岡本社長(岡本商事㈱)・井窪支店長(清和肥料工業㈱和歌山支店)以上運営委員4名、監事の石田社長(森六アグリ㈱)を合わせた総勢10名。理事・運営委員全員のご出席を頂いた。



開催地徳島県の農業概況は、全国1位のすだち、全国2位のレンコン、3位のにんじんに続き上位には、かんしょ(鳴門金時)・カリフラワー・ししとう・ブロッコリー等徳島県の気候を生かした野菜がランクされている。また、ブロイラー(阿波尾鶏)も名産である。

役員会は、有限会社丸喜商店様の会議室をお借りして当社奥野支店長より、役員全員ご出席のお礼、10月15～16日に中部菱肥会主催の愛知県にて開催される「菱肥会ブロック交流会」のご案内等を行った。また、栄物産株式会社様の西部菱肥会への入会も満場一致で承認された。その後、各地の現況報告と情報交換が行われ、懇親会では地元



の新鮮な海産物を堪能した。新会員の入会も決定し、西部菱肥会として会員・賛助会員とも一致団結の上、農業情勢の変化に対応し、厳しい状況を乗り越えて行こうとの思いが強くなった役員会であった。

徳島市では毎年8月に江戸開府より400年続く「阿波おどり」が開催される。連と呼ばれる踊りのグループが1,000組、10万人が踊る壮大な伝統芸能を一度堪能されては如何でしょうか。現役員体制下の徳島県での開催は初めてであったが、有限会社丸喜商店様のご協力により無事終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。

大型で強い台風11号により、甚大な被害が発生しております。被害に遭われました方々には心よりお見舞い申し上げます。台風の中心から離れた地域でも大雨となっている所もあり、農作物への被害も大きいと思われます。今夏の天気は安定しないので、この先も心配ですが、平年並みのお天気になる事を願うばかりです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>